

取扱説明書

ワイヤレスバックカメラ



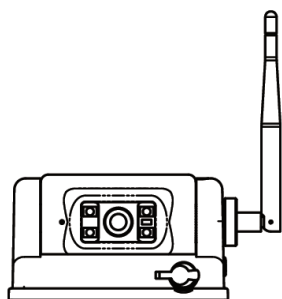
本取扱説明書をよくお読みの上、ご使用ください。
後で参照できるように保管しておいてください。

VI.0

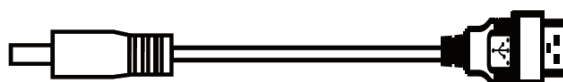
目次

パッキングリスト	2
外観	3
機器のインストール	4
機能と仕様	5
Q&A	6
FCC 警告	6

パッキングリスト



1. ワイヤレスカメラ

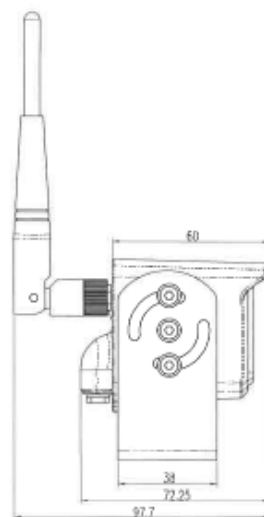
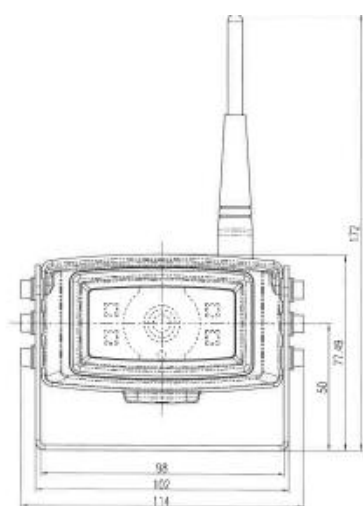
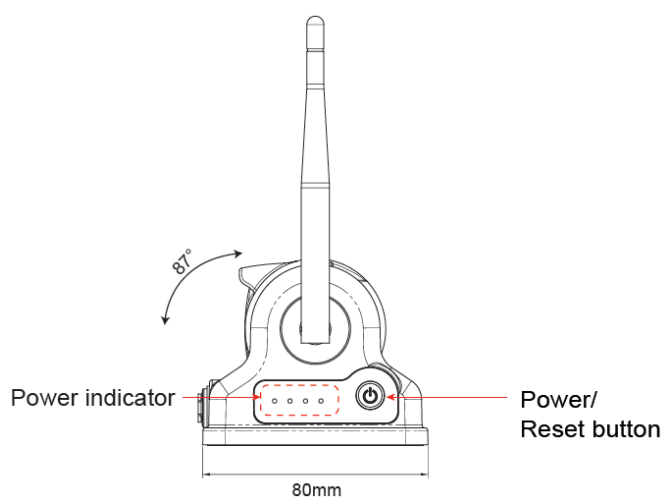
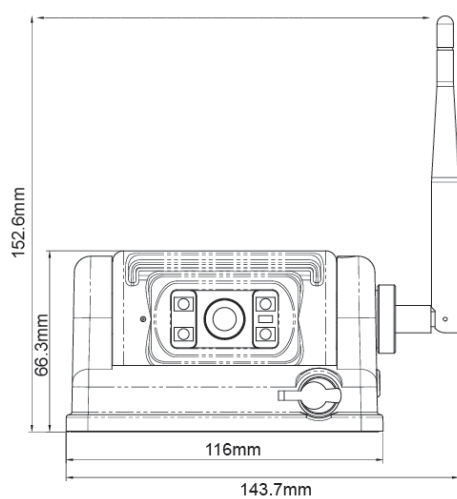


2. USB 充電ケーブル



3. マニュアル

外観



■ 充電状態インジケータ



0~25%

①のランプが点滅し、それ以外のランプは消灯します。



25%~50%

①が点灯、②が点滅、③④が消灯



50%~75%

①②が点灯、③が点滅、④が消灯



75%~100%

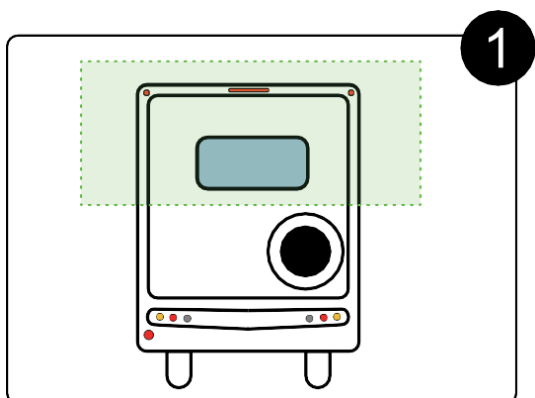
①②③が点灯、④が点滅



スタンバイモード

光②③はゆっくりと安定して暗く明るくなります。

機器のインストール



取り付け面が清潔で、鉄、コバルト、またはニッケルでできていることを確認します。

カメラの背面にある電源ボタンを押してオンにすると、デバイスをモバイルアプリで検索できるようになります。ボタンを2回押してデバイスをリセットすることもできます。QRC-C873Dは常時電源供給となりますので同梱されている電源先バラを接続してください。それによりデバイスをモバイルアプリで検索できるようになります。

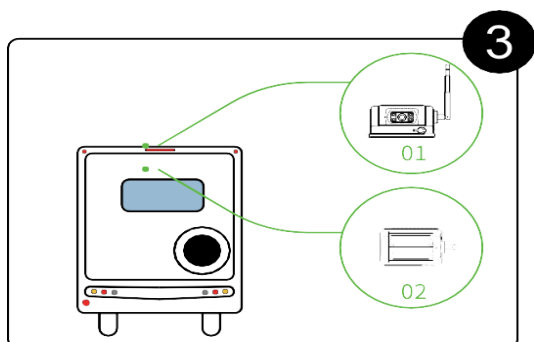
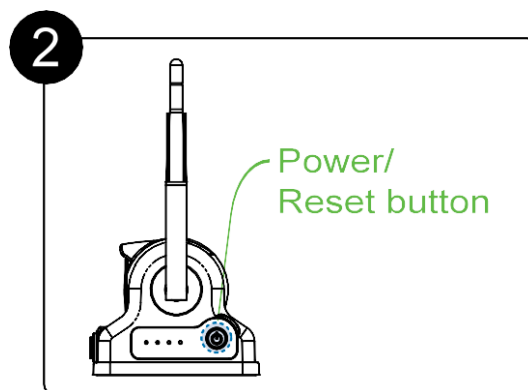
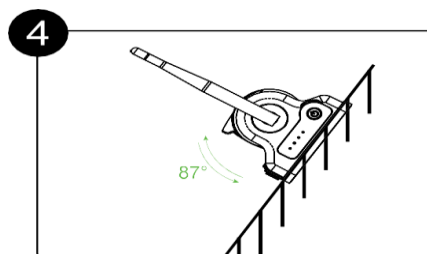


図 01、02 に示すように、カメラを車の後部上部または後部に取り付けます。お客様に最適な方法をお選びいただけます。

両側のトルクスネジを緩め、必要に応じて角度(最大 87°)を調整し、調整後にネジを締めます。



機能と仕様

1. 主な機能

- (1)スマート省電力モード:ワイヤレスカメラは、モニタが動作しなくなったときに省電力モードに入ることができます。バッテリーの消耗を避けるために、カメラの電源を切ることをお勧めします。
- (2)再充電可能バッテリー
- (3)マグネットマウント
- (4)ポータブルで設置が簡単。
- (6)バッテリー待機時間:90 日。

2. 仕様

- ・電池容量:3.6V/6400mAh。
- ・充電電圧:DC 5~12 V。
- ・充電時間:5V/8H、12V/3H。
- ・放電時間:11H(昼)5.5H(夜)
- ・充電温度:0℃~+40℃
- ・吐出温度:-20℃~+60℃
- ・保存温度:-20℃~+60℃
- ・防水性能:IP69K。
- ・イメージデバイス:1/2.9 インチ CMOS。
- ・有効画素数:1920(H)×1080(V)。
- ・伝送距離(バリアフリー)最大 60m(20 dBm)。
- ・Wi-Fi 送信電力:FCC:≤26 dBm、CE:≤20 dBm、MIC:≤10 dBm。
- ・暗視距離:8~10 m。
- ・視野角:120°。
- ・スマート IR カット:有。

Q&A

1. デバイスが接続できない場合はどうすればよいですか？

- ①まず、機器の電源が入っていることを確認してください。
- (2)「はい」の場合は、デバイスに十分な電力が供給されていることを確認してください。
- (3)上記(1)(2)の手順を行っても接続できない場合は、デバイスをリセットしてください。
- (4)上記の方法がすべてうまくいかない場合は、ご連絡ください。

2. デバイスが突然シャットダウンしたのはなぜですか。

- (1)デバイスに十分な電力が供給されているか確認してください。
- (2)電源が切れた場合は、使用する前に充電してください。
- (3)充電が完了したら、アプリを再起動してみてください。
- (4)上記の方法がすべてうまくいかない場合は、ご連絡ください。

FCC 警告

このデバイスは、FCC 規則のパート 15 に準拠しています。動作は、次の 2 つの条件に従います。

- (1)このデバイスは有害な干渉を引き起こすことはありません。
- (2)このデバイスは、望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信したすべての干渉を受け入れなければなりません。

注 1:この装置は、FCC 規則のパート 15 に準拠してテストされ、クラス B デジタルデバイスの制限に適合していることが確認されています。これらの制限は、住宅設備における有害な干渉からの合理的な保護を提供するように設計されています。この装置は、無線周波数エネルギーを生成、使用、および放射する可能性があり、指示に従って設置および使用されない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ただし、特定の設備で干渉が発生しないという保証はありません。この装置がラジオまたはテレビの受信に有害な干渉を引き起こす場合は(装置の電源を切ったり入れたりすることによって確認できません)、次の 1 つ以上の方法で干渉を修正することをお勧めします。

- 受信アンテナの向きを変えるか、再配置します。
- 装置と受信機の間隔を広げる。
- 受信機が接続されている回路とは異なる回路のコンセントに機器を接続します。
- 販売店または経験豊富なラジオ/テレビ技術者に相談してください。

注 2:適合責任者によって明示的に承認されていない変更または修正は、装置を操作するユーザーの権限を無効にする可能性があります。